

南の風

- ・巻頭言
- ・校内書き初め展
- ・学習参観
- ・あいさつ運動、2月の予定



開校当時の五泉南小学校

校長 若狭 陽一

令和7年度の五泉南小学校は、今のところ児童数390名前後でスタートしそうです。令和6年度が420名弱ですから、およそ1学級分の児童数が減る見込みです。児童数の減少は、全国・全県・全市的な傾向であり、当校に限ったことではありませんが、少し寂しい気もします。

さて、1月1日は、五泉南小学校の開校記念日です。開校したころの五泉南小学校についてお話ししたいと思います。

五泉南小学校は、昭和35年1月1日に開校しました。正確には「独立開校」が正しいようです。当時、五泉小学校の児童数は3千名に達する勢いで、教室が足りなく、教務室までもが普通教室に転用されていました。そのような中、現在の五泉南小学校の場所に、五泉小学校の第2校舎が建てられ、昭和32年の夏から、第2校舎でも授業が行われるようになりました。その第2校舎が、昭和35年に五泉南小学校として独立開校したわけです。開校当時の児童数は992名、その後年々児童数は増加し、昭和48年がピークとなり、1210名の児童数でした。

昭和40年4月1日に町屋小学校を統合し、町屋校舎と本校で授業を行いました。昭和42年には、町屋校舎を廃止し、全児童が本校で学ぶようになりました。その後、昭和51年の五泉東小学校開校により一部児童が東小学校へ通うようになりました。さらに、昭和63年4月1日に木越小学校が分離統合となり、現在に至っております。

開校当時の学校教育目標は、記された資料が見当たらず不明ですが、3年後の昭和38年度の学校教育目標を見付けることができました。現在（令和6年度）とは違っていますが、その内容は、今でも学校教育で大切にされているものです。

◆昭和38年度（1963年度）◆

「よく考え 強く正しく生きよう」

- ・進んで仕事をする子になろう
- ・考えをはっきりいえる子になろう
- ・互いに助け合う子になろう

◆令和6年度（2024年度）◆

「自分で考え たくましく生きる子ども」

- ・学びの楽しさ、分かる・できる楽しさを感じながら学習できる子ども
- ・自分や友達のよさを認め、助け合って行動する子ども
- ・望ましい生活習慣を身に付け、めあてをもって進んで運動する子ども

開校当時は、この教育目標を貫くことで、①みんなの幸せな生活を自主的に進

めることができる②科学の改善に努めて実践できる③みんなが幸せな生活を送ることができるという望ましい人間像に近づこうとしていました。私なりに解釈すると、意欲的で、科学的で、道徳的な子どもの育成を目指していたと思われま

す。児童数は減っても、五泉南小学校には開校当時の教職員や地域の方々の思いが脈々と引き継がれています。これからも、児童、教職員、保護者、地域が手を取り合って、よき伝統を守りつつも、今現在の学校課題を明確にし、新たな改善を模索していこうと考えています。